

<取材のお願い>

2022年11月25日

宮崎大学

JST さくらサイエンスプログラム推進本部

**インドネシアの医学生らが宮崎県の環境と健康に関する取り組みを学ぶ
～途上国の環境問題を解決へ導く研究者育成を目指して～**

宮崎大学では12月1日（木）～12月10日（土）、インドネシアのブラウイジャヤ大学医学部に所属する大学院生3名、ポスドク4名、教員4名計11名を招き、環境汚染の疫学調査法、汚染物質の測定法および生体影響評価法の習得を目指し研修プログラムを行います。

途上国における化学物質による大気汚染、水質汚濁は深刻な社会問題です。インドネシアでも近年急激な経済的発展の陰で、環境汚染の問題が深刻になっています。安全な生活環境を確保するためには、疫学調査による環境汚染物質の特定と、環境影響評価が必須ですが、適切な調査を行える人材の育成が喫緊の課題です。そのような状況の中、ブラウイジャヤ大学はインドネシアの環境汚染について早くから問題意識をもち、疫学調査の必要性を認識していました。

一方、宮崎大学は以前から途上国のヒ素汚染対策に関わり、インドやミャンマーで健康調査を行ってきた経験があり、環境化学物質の生体影響について研究を行なっています。さらに世界的に注目されている「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加し、環境化学物質の小児への健康影響についても調査を行っています。

この経験を活かし、本プログラムでは、参加者（招へい者）が疫学手法、汚染物質の測定法および生体影響評価法の修得を旨とするともに、エコチル調査、住民健診、宮崎県のゴミ処理施設を見学し、さらに、世界農業遺産である高千穂郷を訪れ、SDGs と環境保全の実際を経験します。このように日本の環境対策と健康維持政策を学修してもらう機会を提供し、参加者が今後母国の環境問題に取り組めるようサポートします。本プログラムをとおしてインドネシアの環境問題に、ブラウイジャヤ大学と宮崎大学が協働で取り組む基盤を構築します。

つきましては、研修の様子や、宮崎エコクリーンプラザや高千穂郷を訪問する様子などを取材して頂きたいお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の黒田嘉紀教授へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

【実施内容】

- 動物を使用した環境化学物質の測定および生体影響評価についての演習

- 健康管理手法の学修（宮崎県内健診実施施設にて）
- エコチル調査（出生コホート調査）の学修
- ゴミ処理施設見学 環境汚染防止対策の学修（宮崎エコクリーンプラザ）
- 高千穂郷のSDGsの取り組みを体験

【研修日程概要】

- 12月1日（木） 午後 入国、オリエンテーション
- 12月2日（金） 午前 本プログラムの説明
午後 施設見学
- 12月3日（土） 午前 移動・住民健診見学
午後 高千穂郷訪問
- 12月4日（日） 午前 高千穂郷訪問
午後 移動
- 12月5日（月） 終日 動物を使用した環境化学物質の測定、生体影響評価についての演習
- 12月6日（火） 終日 動物を使用した環境化学物質の測定、生体影響評価についての演習
- 12月7日（水） 終日 エコチル調査見学
- 12月8日（木） 終日 宮崎エコクリーンプラザ訪問
- 12月9日（金） 午前 動物を使用した環境化学物質の測定、生体影響評価についての演習
午後 プログラムのまとめ・意見交換
- 12月10日（土） 午前 帰国

本プログラムは科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費をJSTが支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



-
- 本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先
宮崎大学医学部社会医学講座
（担当：菊野）



- 国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ
JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
（担当：田中(禎)、太田）